



【証券コード：9651】

日本プロセス株式会社 決算説明会

2021年5月期 第2四半期



2021年1月15日

1. 2021年5月期 第2四半期連結決算

2. 第5次中期経営計画の取組み

3. 今期の見通し

1. 2021年5月期 第2四半期連結決算

2. 第5次中期経営計画の取組み

3. 今期の見通し

2021年5月期第2四半期 連結決算の概況

単位：百万円

	期首 計画	計画 対比	実績	前年 対比	前年
売上高	3,260	+97 +3.0%	3,357	▲315 ▲8.6%	3,672
営業利益 (利益率)	280 (8.6%)	+36 +13.1%	316 (9.4%)	▲26 ▲7.6%	342 (9.3%)
経常利益 (利益率)	320 (9.8%)	+33 +10.6%	353 (10.5%)	▲18 ▲5.0%	372 (10.1%)
四半期純利益 (利益率)	210 (6.4%)	+25 +12.1%	235 (7.0%)	▲14 ▲5.9%	250 (6.8%)

売上高

前年比：▲315百万円（▲8.6%）

組込、特定情報は堅調だったものの、制御で下期に検収集中、車載制御でコロナの影響などによる

営業利益

前年比：▲26百万円（▲7.6%）

売上減を見込んだ開発体制の見直しなどにより利益率は前年並みを維持

経常利益

前年比：▲18百万円（▲5.0%）

保険解約返戻金等による

四半期純利益

前年比：▲14百万円（▲5.9%）

法人税等の減少による

売上高

計画比：+97百万円（+3.0%）

制御で在来線や新幹線が上期に検収されたこと、AD/ADASでコロナの影響が軽微だったため

営業利益

計画比：+36百万円（+13.1%）

売上増、生産性向上および経費削減による

経常利益

計画比：+33百万円（+10.6%）

豪雨寄付金（予算外）、IPD大連為替差損による

四半期純利益

計画比：+25百万円（+12.1%）

法人税増加による

新型コロナウイルス感染症・感染防止への取組み

- ガイドラインを策定
- 従業員及びお客様の健康に十分配慮し、
リモートワーク、国内外出張/外出の自粛、Web会議/研修などの活用
- お客様とともに推進し、サービスレベルを下げることなく業務を遂行中

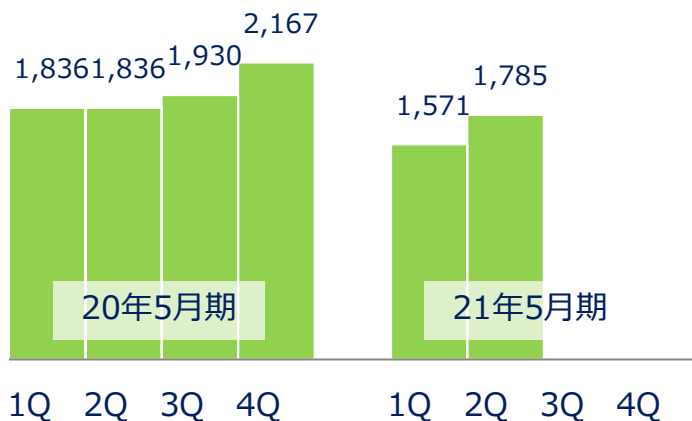


- リモートワークの活用（第1波時約7割）
- 開発体制の見直し、生産性を向上
- 交通費、会議費などの経費低減
- 福利厚生費未消化のため、家族と過ごす費用として特別手当を支給（6M）
- 新卒採用はWebを活用した会社説明会、面接の実施
（2020年32名、2021年34名内定承諾→目標40名）

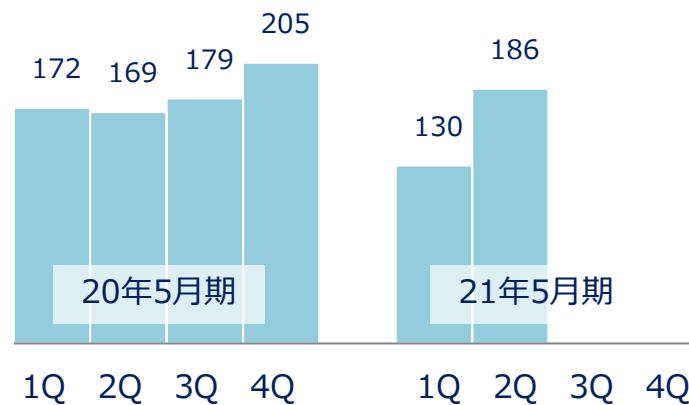
2021年5月期第2四半期 連結決算の四半期推移

単位:百万円

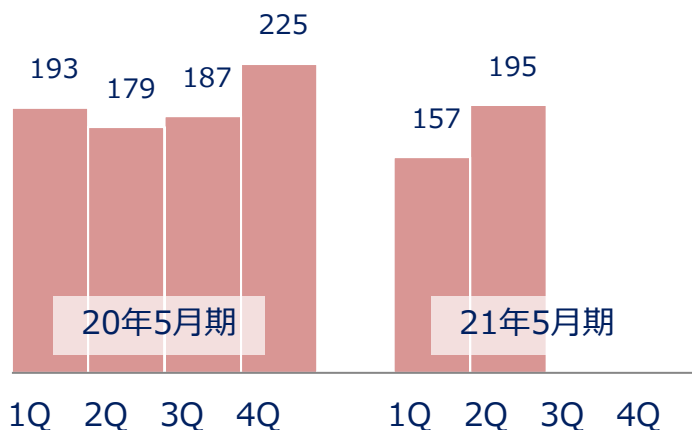
売上高



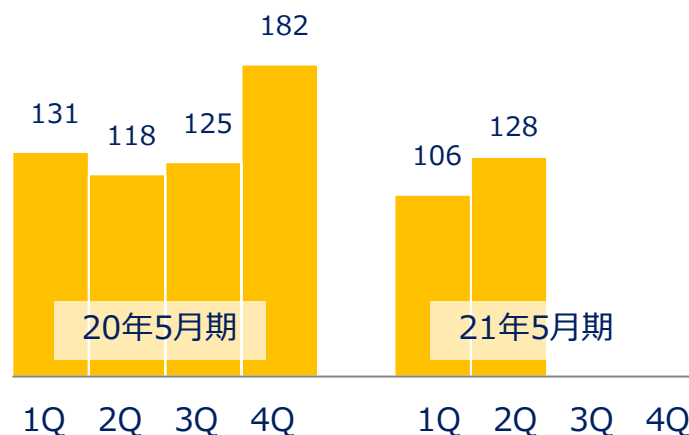
営業利益



経常利益



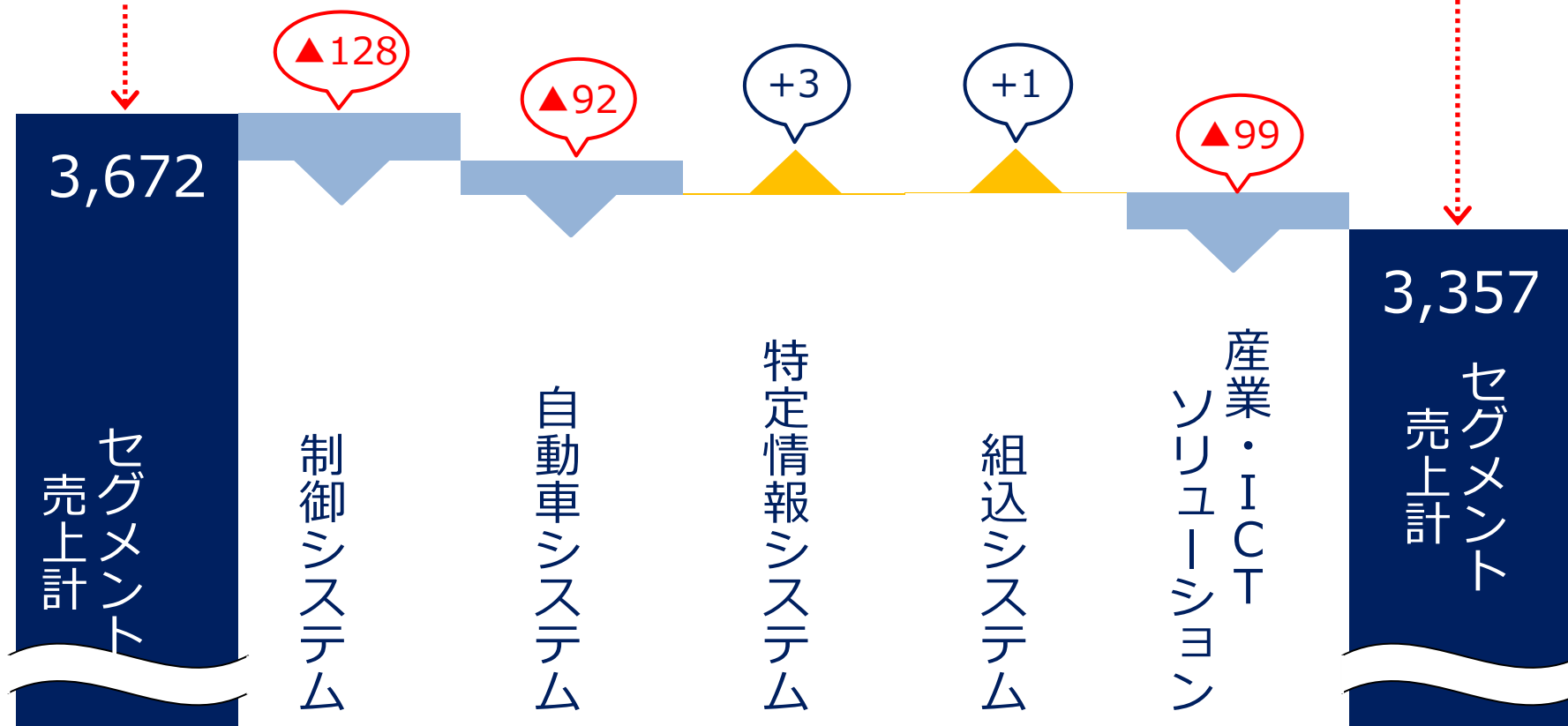
当期純利益



セグメント別売上増減

単位：百万円

315百万円の減少 (前年同期比：▲8.6%)

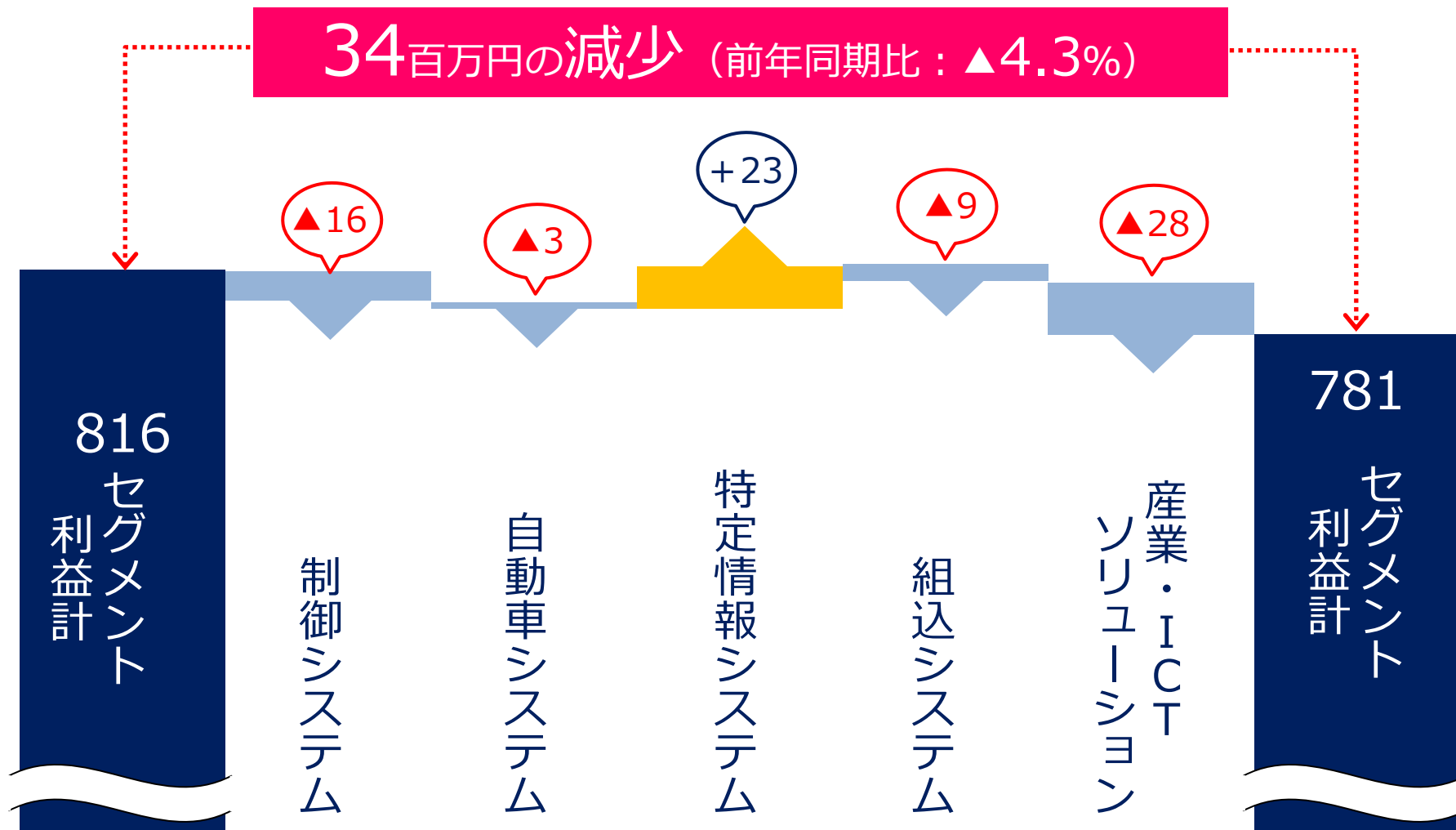


20年5月期
第2四半期

21年5月期
第2四半期

セグメント別利益増減

単位：百万円



20年5月期
第2四半期

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

21年5月期
第2四半期

制御システム

- 電力システムは作業量増も検収は下期、火力発電所向け監視・制御は開発電量が減少
- 新幹線運行管理が堅調、東京圏輸送管理（ATOS）と在来線運行管理は検収が下期に集中

単位：百万円

セグメント		20年5月期 第2四半期 (利益率)	21年5月期 第2四半期 (利益率)	増 減 (増減率)
制 御 シ ス テ ム	売上	551	422	▲128 (▲23.3%)
	利益	125 (22.7%)	108 (25.6%)	▲16 (▲13.5%)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

自動車システム

- 需要が旺盛な自動運転/ADASは車載ネットワーク制御や基盤ソフトウェアが堅調に推移
- 車載制御は電動化案件が堅調も、変速機制御とエンジン制御は減少

(A D A S : 先進運転支援システム)

単位：百万円

セグメント		20年5月期 第2四半期 (利益率)	21年5月期 第2四半期 (利益率)	増 減 (増減率)
		自動車システム	売上	969
	利益	241 (24.9%)	237 (27.1%)	▲3 (▲1.6%)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

特定情報システム

- 画像認識・識別では映像監視関連が好調に推移
- 新規に受注した公共関連が好調に推移
- 危機管理は試験フェーズに入り作業量が減少

単位：百万円

セグメント		20年5月期 第2四半期 (利益率)	21年5月期 第2四半期 (利益率)	増 減 (増減率)
特定情報システム	売上	317	320	+3 (+1.2%)
	利益	60 (19.2%)	84 (26.4%)	+23 (+39.0%)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

組込システム

- ストレージデバイスは好調、新規応用製品開発も受注
- IoT建設機械ではオペレーティングシステム周辺の開発などが横ばいで推移
- 自動運転/ADASの基盤ソフトウェア開発は終了

単位：百万円

セグメント		20年5月期 第2四半期 (利益率)	21年5月期 第2四半期 (利益率)	増 減 (増減率)
組込システム	売上	512	513	+1 (+0.2%)
	利益	124 (24.2%)	115 (22.4%)	▲9 (▲7.3%)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

産業・ICTソリューション

- クラウドシステム構築、イメージングソリューション関連、鉄道関連が堅調
- 航空宇宙関連、IoT関連は横ばい
- ビジネス関連、医療関連は研究開発費の縮小や開発終了などで大幅に減少

単位：百万円

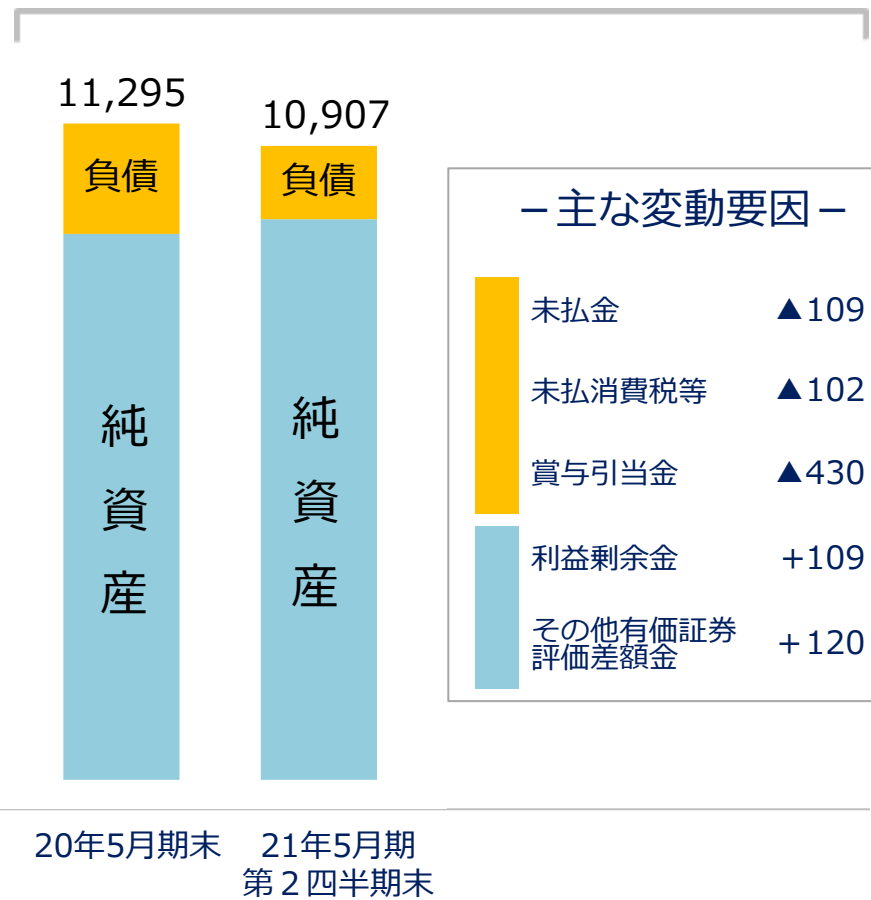
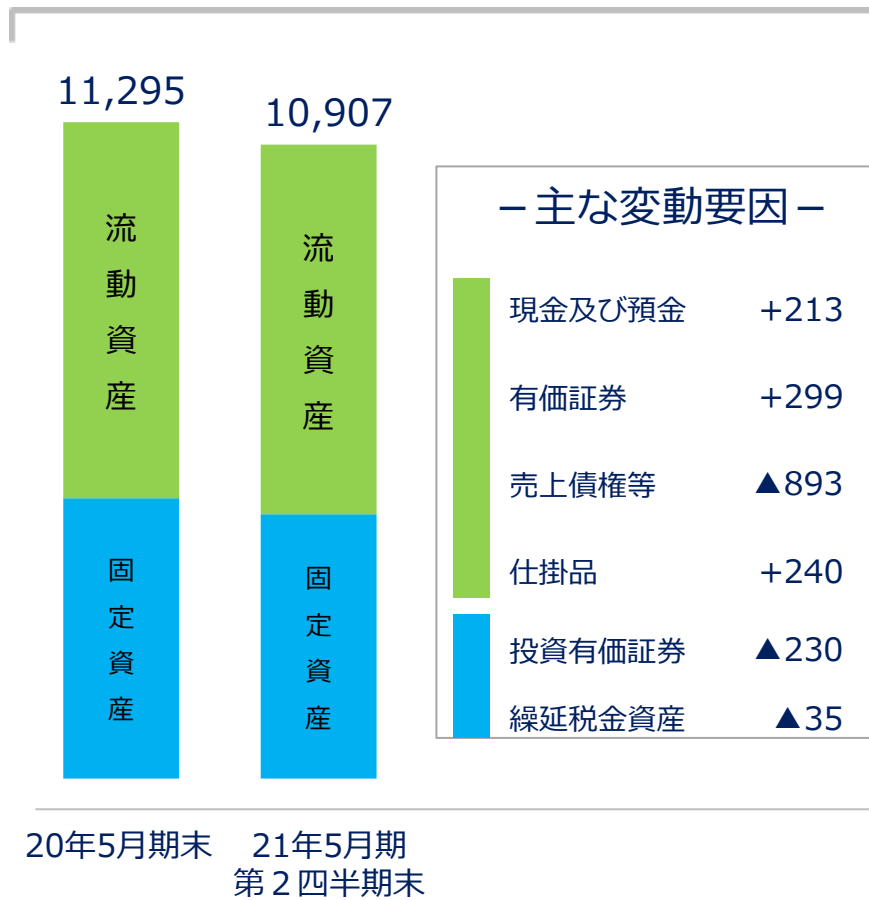
セグメント		20年5月期 第2四半期 (利益率)	21年5月期 第2四半期 (利益率)	増 減 (増減率)
産業・ICT ソリューション	売上	1,322	1,223	▲99 (▲7.5%)
	利益	264 (20.0%)	235 (19.3%)	▲28 (▲10.9%)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

資産の部

負債/純資産の部

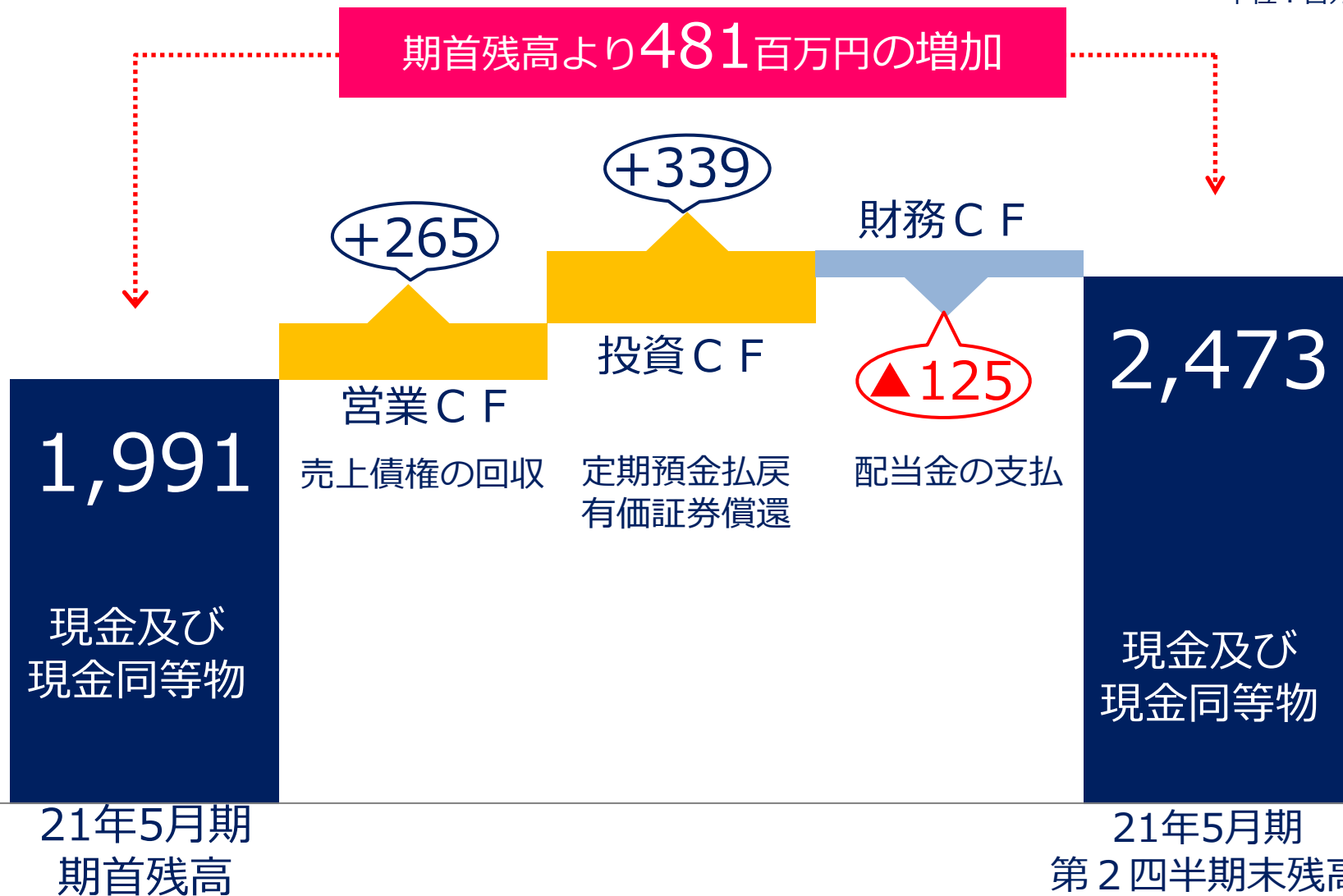
単位：百万円



財務指標（その他）

	20年5月期 第2四半期	21年5月期 第2四半期	(参考) 20年5月期
純資産額	9,155百万円	9,645百万円	9,396百万円
1株当たり純資産	948.12円	996.79円	973.0円
1株当たり四半期 (当期)純利益	25.51円	24.37円	57.4円
自己資本比率	87.0%	88.4%	83.2%
自己株式	988,048株	968,505株	988,048株
従業員数	644人	662人	657人

単位：百万円



※21年5月期第2四半期末残高は、為替変動による増加分1百万円を含んでおります。

1. 2021年5月期 第2四半期連結決算

2. 第5次中期経営計画の取組み

3. 今期の見通し

中期経営ビジョン

ソフトウェアで
社会インフラ分野の安全・安心、快適・便利に貢献する。

基本方針（2019年5月期～2021年5月期）

1. 獲得事業の主力化と新分野の開拓
 - ①自動運転/A D A S*1、I o Tを主力事業へ
 - ②A I、ネットワーク、セキュリティ、クラウド等で、
更なる注力分野を開拓
2. 持続的成長への投資
3. T - S E S（トータル・ソフトウェア・エンジニアリング・サービス）*2の継続

*1：A D A S：先進運転支援システム *2：弊社の造語

中期経営ビジョン

ソフトウェアで
社会インフラ分野の安全・安心、快適・便利に貢献する。

基本方針（2019年5月期～2021年5月期）

1. 獲得事業の主力化と新分野の開拓
 - ①自動運転/A D A S*1、I o Tを主力事業へ
 - ②A I、ネットワーク、セキュリティ、クラウド等で、
更なる注力分野を開拓
2. 持続的成長への投資
3. T - S E S（トータル・ソフトウェア・エンジニアリング・サービス）*2の継続

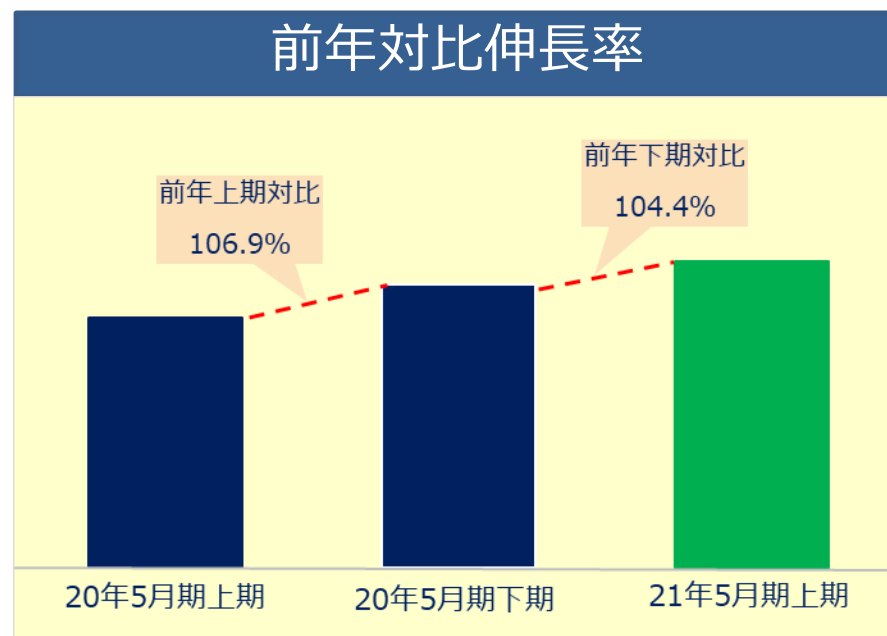
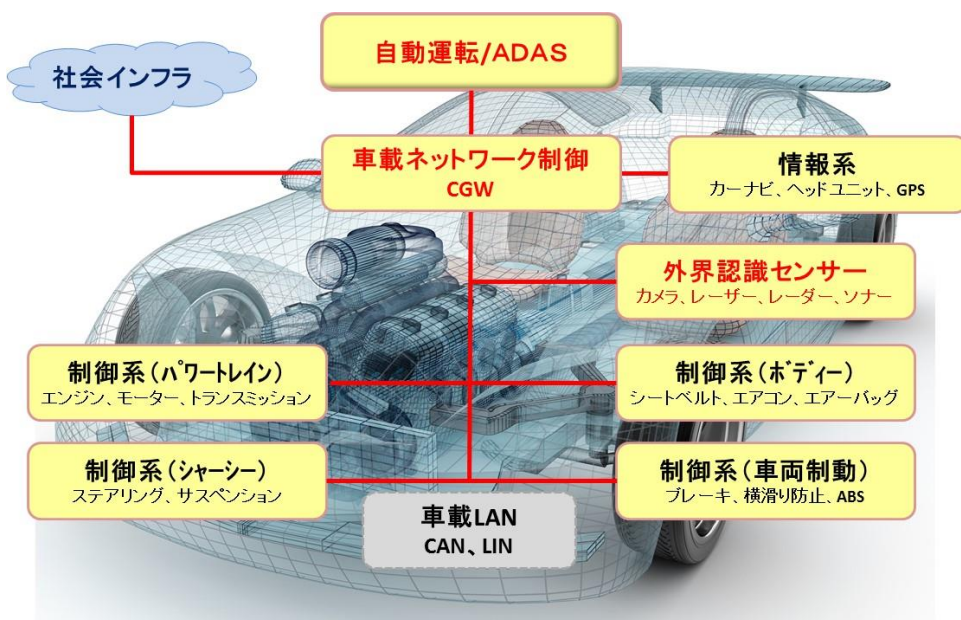
*1：A D A S：先進運転支援システム *2：弊社の造語

基本方針

1. 獲得事業の主力化と新分野の開拓①

1 自動運転/ADAS

自動運転/ADAS分野は旺盛な需要が継続



自動車産業界再編の流れを注視しながら、
強みを生かし更なる拡大を狙う

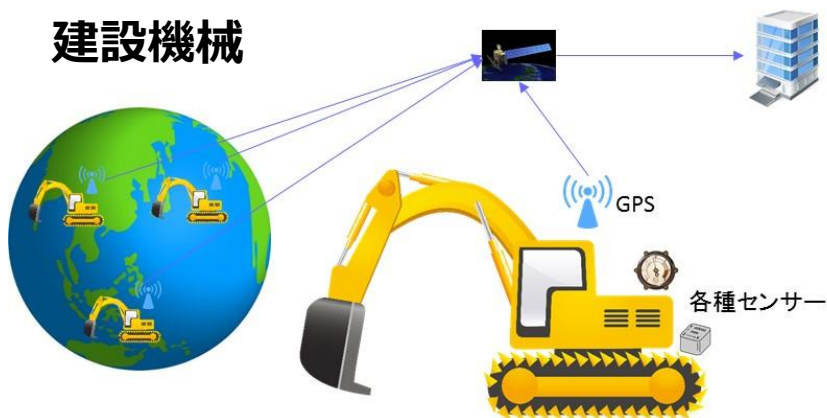
基本方針

1. 獲得事業の主力化と新分野の開拓②

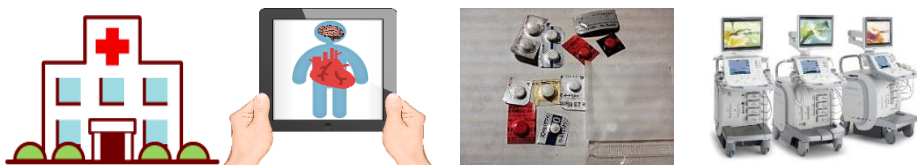
2 IoT/セキュリティ

制御系/組込系技術を組み合わせることで拡大

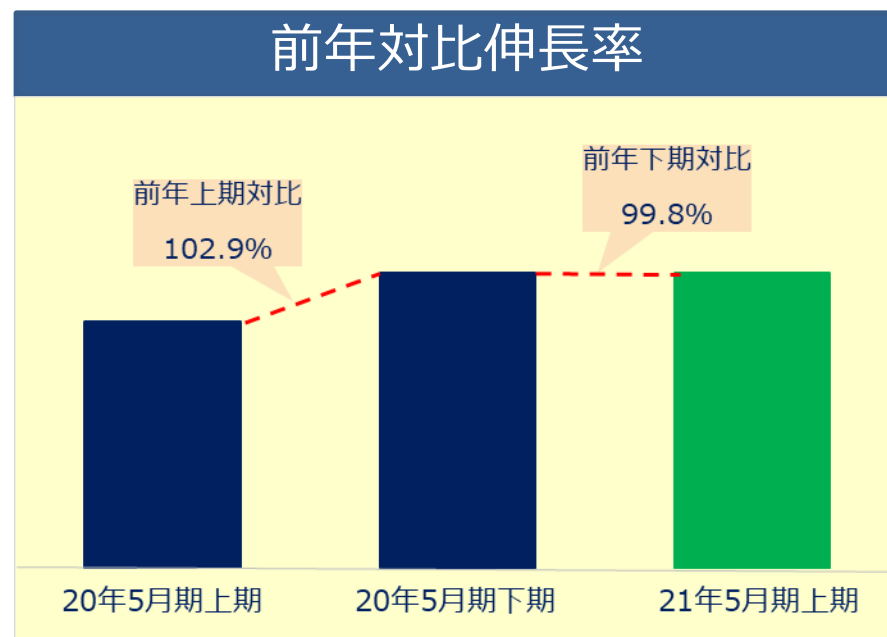
建設機械



医療機器



前年対比伸長率



新たな技術取得にも取組み、主力事業化を狙う

基本方針

1. 獲得事業の主力化と新分野の開拓③

3 更なる注力分野

更なる注力分野を開拓

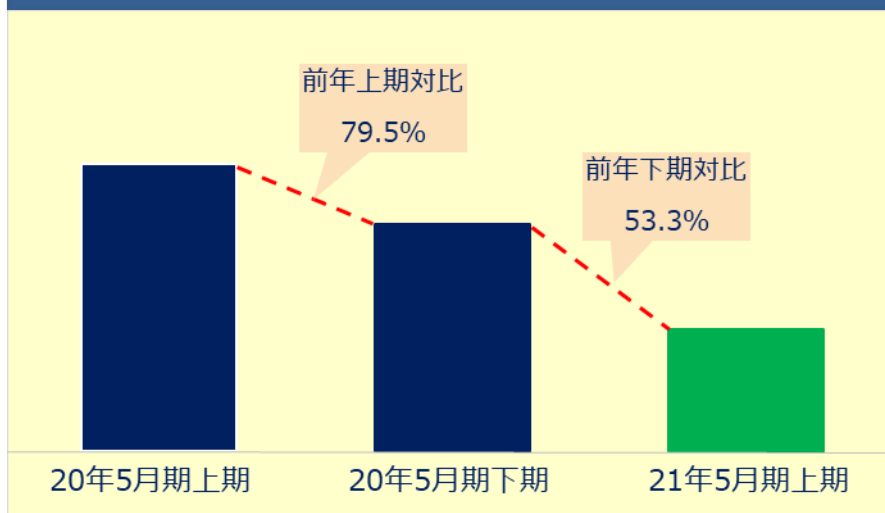


ロボティクス/
A I

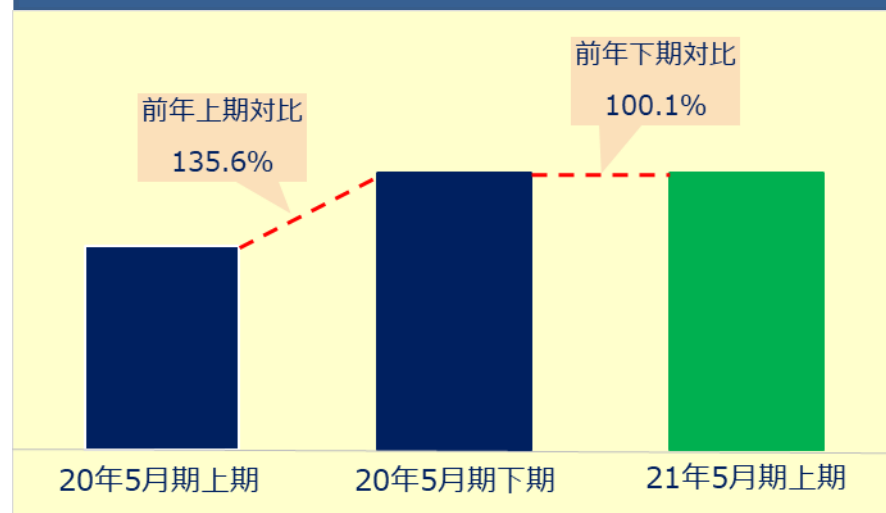


クラウド/
ネットワーク

前年対比伸長率



前年対比伸長率



既存案件の拡大、新規案件の獲得などに取組む

中期経営ビジョン

ソフトウェアで
社会インフラ分野の安全・安心、快適・便利に貢献する。

基本方針（2019年5月期～2021年5月期）

1. 獲得事業の主力化と新分野の開拓
 - ①自動運転/A D A S*₁、I o Tを主力事業へ
 - ②A I、ネットワーク、セキュリティ、クラウド等で、
更なる注力分野を開拓
2. 持続的成長への投資
3. T - S E S（トータル・ソフトウェア・エンジニアリング・サービス）*₂の継続

*1：A D A S：先進運転支援システム *2：弊社の造語

企業価値向上で
★ 株主に還元

業績連動賞与

③

成果主義による評価

②

売上/利益
UP

成果主義で
★ 社員に還元

①

持続的成長
への投資

生産性/品質/技術力で
★ 顧客に貢献

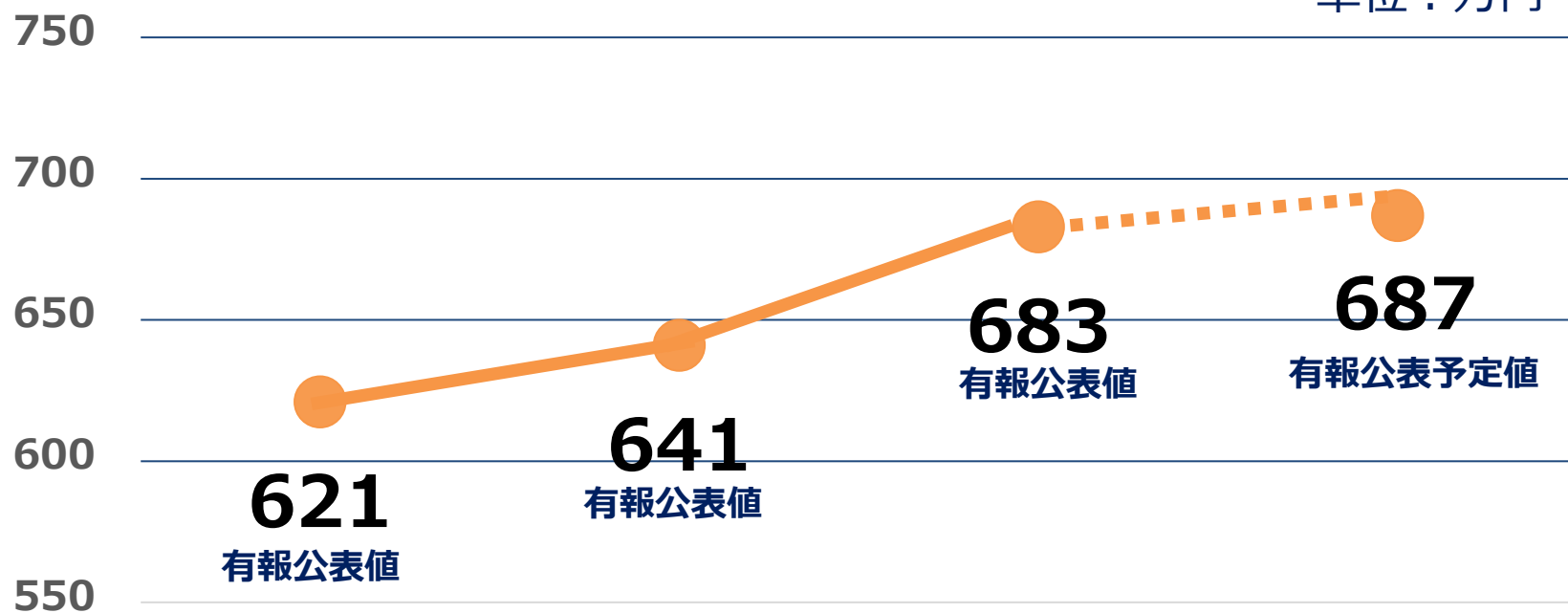
人材、働きやすい環境/制度、設備

2. 持続的成長への投資

- ◆新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言を受けて、
全社的にリモートワーク環境を整備
- ◆技術教育などへの投資を継続
- ◆前期までに働きやすい環境整備を終えるも、さらに
持ち帰り開発推進に伴い開発スペース確保や外部環境に
応じて設備投資を検討
- ◆アルゴリズム研究所のPMI順調、吸収合併（2021年6月）
→更なる事業拡大のために次のM&Aを狙う
- ◆新卒採用（目標40名）の強化、中途採用の継続

平均年収の推移（社員への還元）

単位：万円



2017年

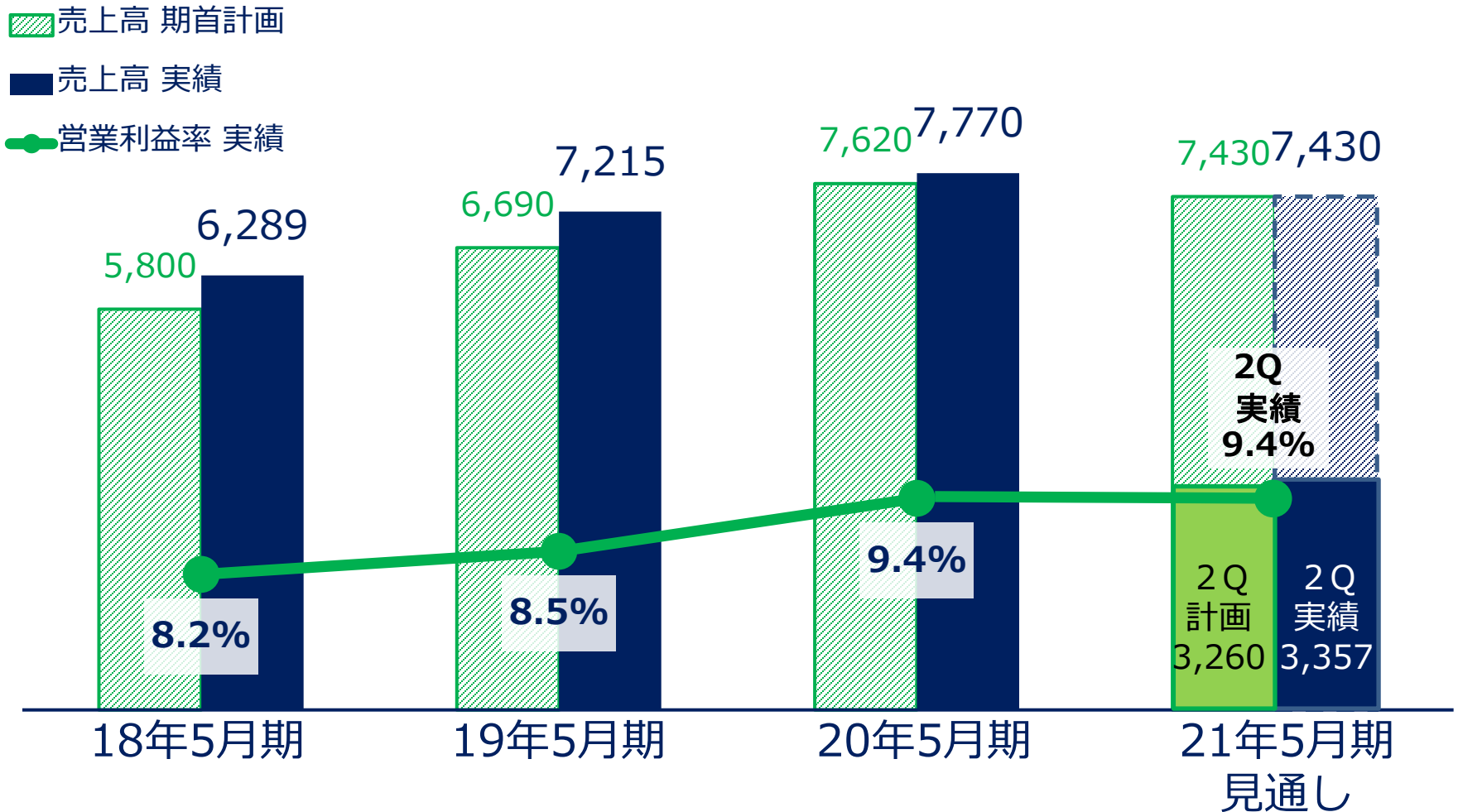
2018年

2019年

2020年

- ◆ 鉄道利用者減少による来期以降のシステム開発投資減少、
先送り懸念
- ◆ 自動車販売減少による既存分野の投資減少懸念、
AD/ADAS開発競争激化による開発投資増期待
- ◆ 日立AMS、本田系部品メーカーの統合
→システム開発範囲拡大期待
- ◆ リモートワーク継続による半導体の需要増期待
- ◆ DX進展によるクラウド環境構築とシステム開発の拡大期待

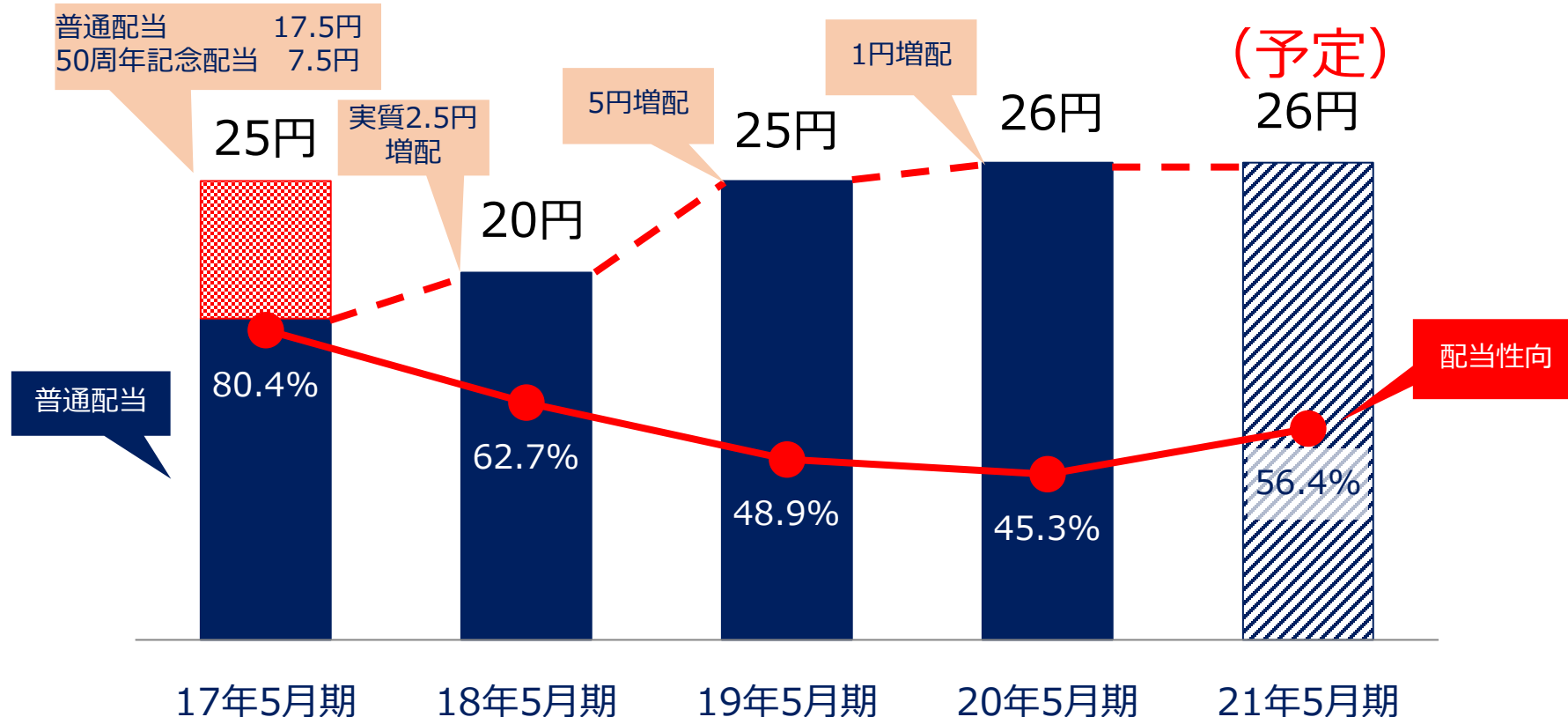
業績の推移



配当方針

① 安定的配当の継続

② 配当性向概ね50%以上を目標



※17年12月1日を効力発生日とし、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。
年間配当額は、17年5月期の期首に株式分割が行われたと仮定し算定しております。

ソフトウェアで

社会インフラ分野の安全・安心、快適・便利に貢献します。

免責事項

本資料は作成時点での予測や仮説に基づく記述が含まれています。

これら将来の見通しに関する記述についてはその実現を保証するものではなく、既知、未知のリスクや各種要因により実際の結果、業績と異なることがあります。

お問合せ

経営企画部 部長 米島英紀

keikibu@jpd.co.jp